

令和８年度 第１回丹波市「トライやる・ウィーク」推進協議会（会議録）

- ◇開会 令和８年５月２８日（木）午前１時３０分
- ◇閉会 令和８年５月２８日（木）午後３時００分
- ◇会場 山南住民センター １Ｆ 学習室Ｂ
- ◇出席者 ・推進協議会委員 吉竹主税（会長）、湊上智帆、平瀬憲利、西田美和、
数元康治、清水邦泰、多次建策、田中秀明、
徳田隆代、松田望恵、足立成子
・事務局 片山則昭（教育長）、小森真一（学校教育課長）、
重田峻（学校教育課主査）、
田中徹（学校教育課指導係長）

（以上１５名）

発言者	内 容
	１ 開会 ２ 教育長挨拶 ３ 委員の委嘱 ４ 委員の紹介（所属等自己紹介） ５ 令和７年度の取組について（報告） ６ 討議内容 （１） 実施の概要について 令和８年度市内各中学校及び校区推進委員会の取組状況 （２） 質疑、意見交換等
吉竹会長	今、令和７年度の取組について報告書「６の討議内容」、（１）令和８年度の実施概要や校区推進委員会の取組状況についても併せて報告をしていただきました。それでは今の報告につきまして何かございますか。まず最初にご質問がありましたらお願いをしたいと思います。冒頭にありましたように所属とお名前を言っていて、ご発言をいただきたいと思います。
湊上委員	教育委員の湊上です。ご説明ありがとうございました。私の子どもも「トライやる・ウィーク」に参加させてもらって、子どもと保護者にとっても、とてもよい学びになっていてありがたいなと思っています。それまでの本当に長い時間をかけて準備をしていただいて、こういうことができているので本当に感謝しております。 報告書の８ページにある「教職員アンケート」の結果を見ると、兵庫県全体の平均に比べて肯定的なパーセンテージが著しく低いように感じます。一方で、保護者や生徒のアンケート結果は非常に充実しています。この差について、学校現場の先生方は現状をどのように捉えていらっしゃるのか、具体的な感想を教えてください。

平瀬委員	柏原中学校の平瀬です。昨年の第2回推進協議会でも同様の質問があり、私自身、改めてアンケート結果を確認しました。一昔前は生徒数も多く、該当学年の担任教員が期間中に「トライやる・ウィーク」の指導や事業所訪問に専念できる環境がありました。しかし近年は少子化の影響もあり、「トライやる・ウィーク」の期間中であっても、他学年の授業を行わなければならないなど、教員が「トライやる・ウィーク」に専念できない現状があります。また、今回のアンケートは「全教職員」を対象としているため、直接生徒に関わっていない教員も回答せざるを得ず、それが数値の低さに影響していると考えられます。学校現場としては、「トライやる・ウィーク」の教育効果を非常に高く評価しており、これがなくなることは大きなダメージだと認識しています。
西田委員	青垣中学校の西田です。私もこのアンケート結果を見て正直ショックを受けました。実際に生徒たちの成長を肌で感じている一方、自分が担当していない年のアンケートは「変化が見つけられない」ため、どのように回答すべきか毎年苦慮しているのが本音です。「トライやる・ウィーク」が始まってから30年近くが経ち、地域や事業所の受け入れ態勢も当時よりはるかに向上し、活動自体は深く定着しています。この大切な活動を維持していくためにも、アンケートのあり方を含めて共通理解を図っていく必要があると感じています。
田中委員	PTA 連合会代表の田中です。私の子どもも昨年警察署でお世話になり、本当にちょっと変わったなとか肌で感じられました。雨の日でも警察署の方が大変丁寧に対応していただいて、親としても活動自体に非常に感謝しています。先ほど説明して頂いたのは、学校全体、教職員の皆さんがアンケートに答えられたこと、なかなか集中して携われなかったということをお聞きしましたが、昨年より数値が落ちているならそれが実態として表れているのではないかと思います。先生方が悪い意味を持っておられるとは思わないですが、業務の圧迫など何かによって数字が出てきているので、担当学年だけ絞ってただ数字を上げるだけならあまり意味がないのかなと思います。保護者としては大変ありがたい活動で、先生方も大変かと思いますが検討していただければと思います。
徳田委員	丹波市社会福祉協議会の徳田です。本当に生徒さんにとっては有意義な時間で良い活動だなと思っています。私も何十年前に「トライやる・ウィーク」が始まったころに、小学校に勤務していましたので、受け入れ側の立場で生徒さんがクラスに入って来てくれました。活動の後半は、こっちから何かしてくださいと言わなくても生徒さんたちが、いつの間にか紙芝居を作って、最後の日には、子どもたちや私たちもびっくりした記憶が残っております。私も今、退職して読み聞かせのボランティアをしています。来週6月2日にゆめタウンの子育て学習センターの方にも、生徒さんが2人ほど活動されると聞いて、一緒に何か1冊、小さい子どもたちに読んでやれたらいいなと思っております。 前回もちょっとお尋ねしたいなと思っていましたが、事前指導で令和7年度の福祉学習等が0時間になっているのは何か理由があるのかなと思っていました。福祉学習は1

	年に1回ほど車椅子体験をしたりとか、高齢者の体験をしたりと学習をして人を大切にする心を育てる土台として重要だと考えますが、ゼロになっているのは何か理由があるのでしょうか。すでに学習しているから0時間になっているのかお聞かせ願えたと思います。 もう一点、不登校の生徒さんにはどういった対応がとられるのかなと思いました。お聞かせ願えたらと思います。
清水委員	丹波市自治会代表の清水です。今話を聞いていて、学校と事業所との間での連携にちょっと差があるのかなと思いました。私も以前、学校に勤めていた関係で学校の立場からいうと事業者に対して非常に感謝しています。協力して子どもたちを、また違う意味でも育ててもらっているという認識があると思うのですが、やはり学校の先生ももっともっと地域に出ていかなければいけないのではないかと、自治会活動をしながら思っています。事業所の方々の熱意とか、子たちたちに対する思いやりみたいなものが感じられる一方で、教職員の数値のギャップを、教育委員会としてどのように考えておられるのかというところを教えてもらえたらありがたいのが1点です。あと、中学校区推進委員会に私も参加していますが、これだけのデータは出てこないのも、地域の方にもこのデータを提示して頂けたらありがたいと思います。その結果、各校区の委員会の話し合いも深まるのではないかと思います。
多次委員	丹波市商工会代表の多次でございます。和田山から来ていますが私の子も昨年、中学校2年生で「トライやる・ウィーク」でお世話になりまして、PTAとして同じような会に参加していましたが、先ほど言われていた内容はどちらの地域にも当てはまるのかなと思って聞いておりました。各事業所とか公共の施設に行く手段として、公共交通を利用したり、保護者が送ったりというようなところで支障になることはなかったのかと思いました。また遠方で、公共交通もちょっと通りにくいということもフォローはされているのでしょうか。 あと1週間通して1つの受け入れ先で対応できたのかなということも気になりました。定休日というか、平日休みもあり、複数の事業所を合わせて活動されている中で、先生方のフォローというのが多分あると思いますのでお聞かせ願えたらと思います。 あと冒頭に教育長が言われましたが、外国人の方も増えているということで、生徒や受け入れ事業所側での外国人対応や留意点について教えてください。
松田委員	丹波青年会議所代表の松田と申します。今回、青年会議所は毎年、地域の課題を解決していく活動をさせていただいております。今年についてはこの研修の3ページ、アンケート1の部分、「知り合った人を訪ねたい」という項目が、兵庫県の平均と比べて、少し低いなというのが私としてはすごく気になりまして、青少年育成委員会の委員として何か解決できないかなと思って事前交渉を組み立てていただきました。 事前学習としてマナー講習会は、敬語や挨拶の大切さを伝えようということとさせていただいています。その中で、挨拶、敬語を使いながら、好奇心を持って、大人の方に話し

	かけて面白いことをどんどん見つけていこう。職場体験っていう仕事を教えてもらうだけではなく、その人の面白いところをどんどん見つけていこうという形で中学校と打ち合わせさせていただきました。今回、青年会議所のメンバー1名に対して生徒さんが8名から14名程度つく形で生徒さんがインタビューを受けるという形で、グループワークをさせていただきました。生徒さんたちからアンケートでは、「挨拶や敬語の練習になりましたか」という質問に対して、4段階評価で、97%の生徒さんたちが「練習になりました」という回答がありました。さらに、「今日話した人と、もっと話してみたいと思いましたか」という質問に対しても、95.3%の生徒さんが「イエス」という回答からもいい形で実施ができたと思っているところです。また、改めまして資料にある先生たちのご苦労とか、事業所開拓について私も知らないことも多く、すべて勉強になりました。 事業所の開拓について質問がありますが、学校や生徒さんは具体的にどのような業種を希望しているのでしょうか。
足立委員	公募によって参加させていただいています足立成子です。毎年6月にかわいい生徒さんたちがお店に行っているところを目にします。すごく挨拶してくださるので、すごく良い取組だなと思っております。またこのアンケートを見て良かったことは、生徒さんと保護者の方がすごく良い感想であることです。今、不登校の生徒とかかわっていますが、9ページの教職員アンケートにあります、不登校傾向の生徒も「トライやる・ウィーク」には参加できていたと書いてあります。そう考えると学校以外のところで活動することで、自信をもって活動後、学校に登校しています。活動場所で認められたっていうところをすごく言うておりました。行った子たちはほとんど良い結果で、帰ってきていい顔でお話してくれているのですごく嬉しいです。
吉竹会長	今、それぞれの委員からご意見やご質問をいただきました。それについて事務局の方からお答えいただける部分があればと思いますが、まず一番冒頭から出ておりました教職員アンケートの数字のとらえ方についての質問に対してお願いします。
事務局	ご意見ありがとうございます。まず教職員アンケートについてですが、昨年のアンケートには驚いております。教職員数が減っており、丹波市では全学年の先生にアンケート取っていますが、「トライやる・ウィーク」を中学2年生に関わってないため、あまりわからないという教職員が低い評価をつけていることがわかりましたので、これを機に改めて、実際に「トライやる・ウィーク」に関わる教職員のアンケートに見直していきたいという先ほどの説明の趣旨でございました。昨年までの母数と少し変わってしまいましたが、県と比較して出すのであれば、そこを変えていかないといけないかなということで、実際に関わった教職員がどういう思いなのかというところの精度を高めていきたいと思っております。 福祉学習については、各小・中学校で発達段階に応じて福祉学習の計画を立てて取り組んでおります。ただ、「トライやる・ウィーク」直前の事前学習で福祉の時間として1時間や2時間を割り振りしたかという点において昨年度の集計上0という結果になって

	しまいました。昨年が1校だったと思いますので、この項目の書き方では誤解を招きやすいため、今後は「どのような形で福祉学習を取り入れているか」が伝わるような項目表記に変更することを検討させていただきます。 新規の事業所については開拓しないといけないかという数だけ見ると開発しなくてもいいのかなというふうに思っています。各事業所で非常にきめ細かに見ていただき、たくさんの事業所に協力していただいています。ただ、業種もどんどん多様化しますし、地域のいろんな事業所がありますので、こんなところに行きたいなという願いがどういうものがあって受けて入れて欲しいなというところが、実際あるのかなと思うのでそのあたりを学校の先生方も来ていらっしゃると思いますので、そのあたりの様子を聞かせただけならありがたいなというふうに思っています。 先ほど委員の方からも、不登校の生徒の作業でお話を聞かしていただきましたが、実際に学校の方で把握されている事例があったら教えていただけたらと思いますし、事務局担当の方でもわかっていることを答えてもらいます。
事務局	いろんなご意見、ご質問ありがとうございました。不登校の生徒に対しては、事前に担任の先生が中心となって連絡を取り、1日でも頑張っていけるところや無理のない活動場所というのをまず最優先に考えて、取組をさせていただいております。もちろんですが家庭との連携もさせていただいています。また、調査としましては、その生徒さんがその後、「トライやる・ウィーク」は6月で終わりますが、7月、9月の登校状況はどうだったかっていうような追跡調査もさせてもらいながら、ずっと関わり続ける取組をさせていただいております。 次に「トライやる・ウィーク」の交通手段ですが、基本的には公共の交通機関ということで、電車や路線バスを利用する生徒がほとんどです。また保護者送迎の対応をとられている生徒もいます。それも可能でない場合の方は、県からの交付金でタクシーを利用して、活動場所まで送迎している生徒もいます。
吉竹会長	今、事務局の方から説明をいただきましたが、ご質問、ご意見はいかがですか。
平瀬委員	柏原中学校の平瀬です。今、生徒からの事業所の希望はどういうところがあるのかという質問があったと思います。この推進協議会、その下に各学校の校区推進委員会というのがありまして、校区推進委員会は、先ほど紹介があったように5月の下旬に1回、あと1月、2月ぐらいにもう1回っていうのは大体のパターンだろうと思っています。5月の段階では、子どもたちの行き先を紹介し、よろしく願いますっていう報告みたいな感じになるので、いつも1月、2月のときには、来年度、参加をする子どもたち達はこのように希望していて、こういう事業所が足りないことを言っています。ただ、子どもたちは安易な部分もありまして、よくわかるところに行きたいというのが相当あります。子どもたちが希望して足りないのは、飲食店とか商業施設など何をしているのかはたから見てもよくわかることを希望しているところがあって、逆に言うと、企業で、〇〇工業とか言われても、何を作ったりしているのかわからないと、なかなか

吉竹会長	か敬遠して非常に難しいところはあります。 ありがとうございました。ご質問の中に外国人の対応が増える傾向にあるのではとありましたが、その辺のところは事務局いかがでしょうか。
事務局	「トライやる・ウィーク」だけに関したことではないですが、やっぱり支援の必要な生徒は増えている傾向があります。「トライやる・ウィーク」に関して言うと、事前に事業所の方に各学校の担当教師が出向いて、配慮の必要な生徒を含め打ち合わせを行っております。本年度であれば、給食センターに肉が食べられない文化の外国人籍の生徒が参加することになり、触ることや調理することは可能かなど生徒、保護者に確認したことを給食センターに報告させていただいて対応しました。
吉竹会長	ありがとうございました。それと、各中学校区推進委員会の話が先ほど出ていましたが、今回のこのようなデータが校区推進委員会でもあればというご意見がありましたがいかがでしょうか。
西田委員	青垣中も1回目のときにこのデータを学校から出すことはなかったですが、事務局の田中さんにお世話になりまして、口頭ではありましたがこのデータを披露いただいて、本当に推進の方も一生懸命にメモを取られていましたので興味深いところであるということとは実感しております。
事務局	追加でお話させていただきます。こちらの事務局の方も、各中学校の推進委員会の方には参加させていただいたときに、先ほど西田さんの方からもお話ありますが口頭で説明させていただきました。今回の資料データや学校ごとのアンケート結果の方は、各学校に送らせていただいていますので、その資料をもとに2回目の校区推進委員会で提示させていただいて協議していただければと思います。
吉竹会長	また事務局の方も、その都度適時に生徒の希望調査結果など必要な資料がありましたら出していただきたいと思います。 それと、学校の意識というか学校と事業所の捉え方にギャップがあるのではないかとというご意見がありました。県の教育委員会の方からのアンケートであるということでしたが、それだけでなく、丹波市の取組として、しっかり検証ができるようなアンケート項目を丹波市独自で作ってその項目について、それぞれ学校で聞いていただけるような取組を検討していただけたらという話をさせていただいたと思います。今回、事務局の方からもありましたように、この学校のアンケートの結果が6校中2校、「トライやる・ウィーク」に直接関わっていない先生方にもアンケートを求めた結果ということで、1つはそういう要因があったのかもわかりませんので、今年度、そのアンケート取り方についても少し、問いを変えていただいたら、ある程度形が変わってくるのではというふうに思いますが、その点は、改めていかがでしょうか。

事務局	先ほど申されたように、昨年度から6校中2校のアンケートに変わり、母数が減ることによって、やはり1人のアンケート結果の影響で大きく左右されるっていうのは、今回の教職員の数値が下がった原因の1つであるのではないかと考えております。また他市の取組を聞きますと、2年生対象の教職員だけにアンケートを実施していることもわかりましたので、本年度は2年生だけで実施し経過観察を行う予定にしております。それでも低いようであれば丹波市独自のアンケート等、教職員の意見をもっと吸い上げられる項目を検討したいと考えております。
吉竹会長	いろいろお世話になりますよろしくお願いします。他に何かご意見等ございましたら。ないようでしたら私の方から1点、お願いがあります。今回のアンケートですが、個人的には県と比較するという説明がありますが、県と比較をする必要があるのかと思います。県の結果と比較するよりも丹波市の取組の成果として、経年でその推移を見ていく方が大切ではと思います。この点については、こういうふうに変ったなとか、その原因は何だろうということをこの推進協議会で検討していったり、校区の差があれば、それぞれの校区推進委員会で検討してもらったり、そういうような資料であれば、いいのではないかと個人的に思っていることですので、また、そういう点も含めてご検討をいただければありがたいです。丹波市の実態や成果、課題を出していただくということも大事なかなというふうに思います。よろしくお願いいたします。
教育長	今、出た意見の中で丹波市もずっと市長も言っているように、「帰ってこいよ」という言葉を使っていますが、地元に残りたい人が残って欲しいという話です。この「トライやる・ウィーク」で先ほど校長先生がおっしゃられた〇〇工業とか言う会社の中身がわからない。例えば兵庫パルプって大きな会社がありますが、毎月1回、情報交換会をすると会社の中身はわかりますが、見学に来られるのは山南町内の9歳くらいの子どもさんでなかなか地元の人が就職してくれないと言われます。パナレーサーでも1回聞いたことがあります、どういう形にしたら、会社の中身がわかって、商工会の方や青年会議所の方も来られていますが、そんなことを学校に伝えられるような機会があれば工場での様子が分かり、何か各地区の推進委員会とかその中で紹介ができるようなことがあったらもっと増えるのではないかと思います。先ほどおっしゃったように食べ物のわかりやすいところとか小学校や認定こども園が多いのはちょっと気になります。もっといろんなことを経験できたらなということなので、どのように子どもたちに周知させていくかというような工夫が、1つは必要かなということをもっと皆さん方でもしこういった形で子どもたちに紹介できるよとか、1つは中学校に丹波の企業って書いた本がありますが、私、最初見たときにすごい絵本だと思って、各学校に1冊は必ず置いた方が良くないかと思いました。将来のことを考えた時、こんないい会社が丹波市にあるなら、僕は私は、丹波市に残りたいと思うのではないかとと思うので、そういったことができる工夫を考えていけたらなと思います。 全体を見ていて最近思うのがこのアンケートにもありましたがコミュニケーション力が少し落ちているのではないかと思います。人と人の距離感がわからないとか、そう

	いう意味でいうと、このアンケート調査を見た限り、親子での会話ができたことはいいことで、職場で挨拶をすることや知らない人と話をするなど非常にいい機会だと思うので、逆に受け入れ先の方で、気をつけてもらいたいのが最近、特にスマホとか、タブレットとかユーチューブに流れているので、その分、人と人とが会話する機会が減っていると思っています。「トライやる・ウィーク」はいい機会なので、コミュニケーション力を上げるためにも受け入れ先の企業では、挨拶や積極的に話し掛けてもらいたいです。 アンケートのとり方先ほど吉竹会長がおっしゃったように、経年経過で見るとか検討した方がよいのではないかと思います。
吉竹会長	ありがとうございました。大体3時をめぐりということで聞いておりまして、毎回、「トライやる・ウィーク」の協議会をさせていただいたときに、毎回ですが、この「トライやる・ウィーク」を、その年度に、しっかりと進めていくには、やっぱり受け入れ先があってこそ、この事業ができる、体験させてもらう場所があってこそできるということ、そして送り出す各学校の事前からのご苦労があって進んでいるということを強く思っております。そして、さっきもありましたがコミュニケーションとか、挨拶とかそういう時間を守るとか、当たり前のことをしっかり当たり前にできるようにしていく。家庭での支援というか支えというか、そういうものがあって初めて成り立つとも思いました。 先ほど事務局の田中さんに冒頭、講義の柱は何かございますかって言ったら、29年目を迎える「トライやる・ウィーク」において「地域に学ぶ」ことの意味を再確認することが大切ではないかということをお教えいただきました。地域で学ぶということだけでなく、地域で育てる「トライやる・ウィーク」ということも考えて、今年度それが6月1日からですね、推進ができますように、お願いをしまして、この協議会終了したいと思います。それでは事務局の方にお返しいたします。
事務局	吉竹会長ありがとうございました。また皆様の貴重なご意見、ご質問など本当にありがとうございました。皆様のおかげで今後の方向性や課題が見えてきたかなと思っております。厚くお礼申し上げます。「トライやる・ウィーク」は、その前に「地域に学ぶ」という言葉がついている通り、地域で学び、地域で子どもたちを育てる活動です。皆様におかれましては引き続きのご支援をお願いいたします。 次回の第2回推進協議会は、令和8年12月頃を予定しております。それでは以上をもちまして、令和8年度第1回丹波市「トライやる・ウィーク」推進協議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。